

令和6年度 第2回下野市健康づくり推進協議会 会議録

- 日 時 令和7年2月6日(木) 午後2時30分～午後4時30分
- 場 所 保健福祉センターゆうゆう館 大ホール
- 出席委員 村田光延委員、江連美佐代委員、伊沢泰直委員、金子ひとみ委員、
春山早苗委員、鶴見利夫委員、佐藤とよ子委員、菅井貞雄委員、
原安礼委員、石原加奈委員、原口由紀子委員、印南久美子委員、
大塚文子委員、田中康代委員、中村剛史委員(代理:鈴木悦子様)
- 欠席委員 上野文夫委員、宇賀地恵子委員、小倉庸寛委員
- 事務局 大山こども家庭センター長
すこやか親子グループ: 中新井主幹
間板健康増進課長
健康づくりグループ: 生井課長補佐、大栗副主幹、奥村主査(保健師)
山崎主査(管理栄養士) 岡主査(保健師)
- 配布資料 会議次第
下野市健康づくり推進協議会委員名簿
【事前送付資料1】第4次健康しもつけ21プラン健康実態調査について
～幼児編～
【事前送付資料2-1】「健康しもつけ21プラン(第4次)」と「いのち支える
下野市自殺対策計画(第二期)」を一体的に策定します
【事前送付資料2-2】いのち支える下野市自殺対策計画(概要版)
【事前送付資料2-3】自殺の現状
【事前送付資料3-1】健康しもつけ21プランの評価方法について
(評価表、記入例)
【参考資料】下野市 R6 年度版相談機関一覧
1. 開会 (開会・進行: 間板課長)
2. あいさつ
3. 議事
- (村田副会長) 今日は代理で議事進行をさせていただきたいと思います。寒い中お集まりいただきましてどうもありがとうございます。活発なご討議をどうぞよろしくお願いいたします。それでは、事務局の方から説明をお願いいたします。
- (事務局) 【資料1】に基づき、幼児の健康実態調査結果について説明
- (村田副会長) この調査に関して、ご質問ご意見ありますでしょうか。
- (原委員) 私は、南河内小中学校のPTA会長ですが、以前行った、学校独自の調査で小学生・中学生が朝食を食べる食べない割合が出ていました。その中で、食べない理由として、親が用意していないという割合が意外と高かったのを覚えています。市の方でそのことについて、調査できているのかどうか分かりますか。子供が食べたいか、食べたくないかにかかわらず、家庭で用意されていないというのがあるらしく、その割合が私の印象では高かった気がするんです。

- (事務局) 小中学校のアンケートは、学校の方で全学年ごとに行ったものを、地区ごとにまとめたものを毎年みせていただいております。今回の結果でも「一人で食べる」が増えていたと思います。用意していないので食べていないと回答が多かった事に対して、学校のほうでは食育の一環として、自分で軽いものや簡単なものを準備して食べるということを、指導しているというお話でした。
- (村田副会長) 原委員のご指摘は、こういう調査をするにあたって、食べている、食べていないだけではなくて原因を調査し、課題を抽出し対応していくことが大事ではないかというご指摘ですね。
- (原委員) はい、そうですね。
- (村田副会長) ありがとうございます。今はPTAの立場からでしたが、お子さんとよく接する機会のある養護教諭の立場からということで、石原委員いかがでしょうか。
- (石原委員) アンケートをとると、用意をしていないという回答もあります。私は中学校養護教諭なので自分で用意するということを指導しています。具体的には自分で作るだけではなくて、コンビニで買っておくとか。お弁当の日などもあり、作ること自体ゼロではないと思うので、なにかできるものを作るとか、果物は含まないとなってしまうと、厳しくなってしまうますが、パンでも果物でも何か食べるものを自分で用意する習慣付けをするという指導をしています。ただ、個別での指導のため全員に指導ができていないわけではないので、全体的に改善できているかというのはちょっと難しいと思います。
- (村田副会長) はい、ありがとうございます。中学生であれば、そのような対策の仕方があるというのが聞けたので安心というか、対応の仕方があるんだなと感じました。この調査の対象はどういった年代の方だったのでしょうか。
- (事務局) 年長児の保護者が対象となっています。
- (村田副会長) 今回は年長児ということですね。年長児だと難しいですね。親が作らないと、ということになってしまいます。他にございますか。
- (大塚委員) 調査として調べることは重要だと思います。ただ食事となりますと、親が朝食を食べない場合は子供にも用意せずに、子供も食べないという研究結果が出ています。それと補食とか欠食の研究では、誰と食べるかというの、とても重要になります。共働きだと親が出勤の準備をしているときに、子供に朝食の準備はしますが、子供はぼーっとテレビを観ていたりして、結局用意されても食べない場合もあり、それが続くことで親も用意しなくなるということもあります。歯みがきができなくなってしまうますが、おにぎりとか、簡単に食べられるものを用意すれば、保育園へ送迎中に車の中で食べさせられたりすることもできます。ただ、子供の食事となるとやはり内容が重視されるので、どんなものを食べているかの調査となると、写真を撮るとかのレベルになってくるので調査が難しくなるのではないかと思います。レベルの段階が色々あるとは思いますが、この健康実態調査は重要なことなので継続していく意味はあると思います。
- (村田副会長) ありがとうございます。大変貴重な意見交換ができたと思います。事務局にお伺いしたいのですが、平成28年に行った調査における課題に、対策を講じて令和6年にその成果を確認した。そしてまた新たな課題を抽出するという目的があると思いますが、行政側としてこれまでの取組と結果、そして考察と課題があつてということなのでしょうか。

- (事務局) ありがとうございます。平成28年度に調査をしてその後、健康しもつけ21プラン～第3次下野市健康増進計画～を策定いたしました。朝食の欠食率について目標を具体的に挙げさせていただきました。その中に市民の取り組み、組織団体の取り組み、行政の取り組みということで、今お話があったように、朝食の大切さについての普及啓発を健康増進課だけではなく社会福祉課、こども福祉課、保育園、農政課、学校教育課、生涯学習文化課それぞれで行っています。あとは、今日ご出席いただいています食生活改善推進員さん、地域の団体の皆さんにも朝食の必要性をPRしていただいている状況になります。
- (村田副会長) ありがとうございます。今のお話で、改めて皆さんと共有できたと思います。他にご質問ご意見ございますでしょうか。
- (佐藤委員) 1か月くらい前に、小学1年生の男の子がお弁当を作って持ってきていたのですが、少し残していたので、「学校の給食は、全部食べられるの」と聞いたら、「全部食べられる」と言う事だったんです。「朝ご飯を、作ってもらえないからお腹がすいて、給食が待ち遠しくてきちんと食べている」という話をされたので、びっくりしてしまいました。それでその男の子には「そうなの、なるべく朝ごはんは食べたほうがいいよ」というような話をしました。食生活改善推進員では、小学生を対象に『自分でつくって食べよう』という事業を行っていて、成果は徐々にあがってきていると思いますので、これからも継続していきたいと思います。
- (村田副会長) ありがとうございます。貴重なご意見といえますか、先ほど中学生にはそういうふうには、養護教諭の先生の立場から話をされているというお話がありましたけど、小学生も高学年くらいになれば、自分でも準備できるということを啓発していくことは大切ですね。社会的問題ですよ。親御さんがどうかっていうところに切り込むことは中々難しいですけども、お子さんに自主性をつけるということで、お子さん自身をより幸せにすることはできるのかなと思いがらお話を聞かせていただきました。貴重なご意見ありがとうございます。
- (伊沢委員) こちらは朝食のアンケートですが、夕食のアンケートで一人で食べているとか、誰と食べているかはありますか。高齢者の方の孤食が多くて、幸せ感があまりなくて辛いっていうのをお聞きします。これは小児ですから6歳ですので同様のことが当然おこってくると思います。朝は忙しくて起こりうると思うんですが、夕食をまさかと思うと、ちょっとところが痛いのですが、そのようなアンケートはありますか。
- (事務局) 今回のアンケートでは取ってないです。
- (伊沢委員) 残念です。幸せ感が幼いうちから育まれないと、大人になって幸せを感じる事ができにくいと聞いたことがあります。しっかりと止められるような環境を考えて行きましょう。
- (村田副会長) ありがとうございます。他にございますでしょうか。この短い時間だけでも、このように色々皆さんからご意見が出るということは、この実態調査があるからで、大事なことだと思います。引き続き実態調査をお願いしたいということと、あと社会問題と話をしましたけれども、今また子ども食堂が再開されたり、隣の小山市ではオーガニックの給食ということを非常に重点的に活動しているということが、先日の公開講座で把握しました。行政とタイアップしながら我々市民ができることは、まだまだあるなと個人的には思っています。ありがとうございます。

- (春山会長) 皆様、大変遅れまして申し訳ございませんでした。村田副会長、ありがとうございました。ここからは、私が進行させていただきます。2点目になります、健康しもつけ21プランの次期計画策定について事務局からよろしくお願いいたします。
- (事務局) 【資料2-1、2-2】に基づき説明
- (春山会長) 今、お話がありましたように、自殺対策というのはこころの健康と関連してくるわけなんですけれども、健康しもつけ21プランの方にもこころの休養というところがあります。そちらの方でも目標があり、それが自殺対策の目標値にもなっているということで、次年度これをバラバラな計画ではなく、一体的に計画していつて令和8年から12年間の計画をつくるという方針のお話がありました。皆様の方から何かご質問ですとか、ご意見はございますでしょうか。
- (伊沢委員) 私は小学校の学校薬剤師をやっておりまして、薬物乱用防止教室を、定期的に行っています。その中で、オーバードーズ（OD）も自殺の一つの方法と思いますが、小さいうちからスライドを使用して話をします。その中に、『誰にでも相談できるようにしましょう』というのは、薬物に手を染めない一つの方法論として、強く推奨する場面があります。これは子供向けのお話ですが、今日は大人全体の話ですので狭い部分ではありますが、誰にでも相談できる環境というものを小さいうちから、こどものこころの形成として、そういう大人になって欲しいと思います。
- (春山委員) はい、ありがとうございます。計画の方は、若年層から高齢者というふうに幅広い世代にわたっていますけど、相談しあえる環境づくり、世代によっても相談できる対象が違ってくると思いますし、また周囲もいつもと違うなと気づくということも大切ですし、そういう環境づくりを健康づくりの一環として一体的に実施するというのは、とても効果的ではないかと私も思います。金子さん何かございますか。
- (金子委員) 環境づくりは非常に必要で、伊沢委員もおっしゃってくださったように若年層や中学生はもちろん小学生においても自殺という危険が、SNS等により昔と比べて忍び寄っているなと感じています。そうすると、環境づくりって中々家庭だけではおさまりきらない部分もあると思いますので、非常に必要なことだとお話を伺って更に思いました。
- (伊沢委員) NPO法人で何でも相談できるような、LINEや電話などありますが、以前に小山市の健康のシンポジウムで発表されていました。
- (春山会長) ありがとうございます。村田副会長何かありますか。
- (村田副会長) 現状の資料があると思いますが、目標値は0人になっていて、本当に0人にできるのという感じがします。なので、子供の自殺と大人の自殺を分けたほうがいいではないかと思います。プランも一緒にするという話がありましたが、子供と大人は分けて目標値も、20歳未満を0人にするとか、そうしないと真実味がないです。誰が責任をもって0人にするんだろうと、例えば民間であれば、目標達成できなかったら誰かが責任をとるんですけども、それぐらいの気持ちで0人と、包括的にみんな捉えて0人と言えるのかなと、逆に対策や課題抽出とかに対して不透明に甘くなってしまうたりする場合はないのかなと思いました。
- (春山会長) ありがとうございます。0人にしなかった場合いくつにするかというところですが、誰一人取り残さないとありますので、その気概をもってというところなんだと思います。事務局の方で村田副会長のご意見に対して何かございますか。

- (事務局) 先ほどお話しをさせていただきました、自殺の計画につきましては自殺対策ネットワーク協議会がございます。そちらの方で評価をさせていただいて、これから意見をいただきながら計画策定をしていきます。この後、下野市の自殺の現状についてお話させていただきますが、村田副会長さんから話がありました通り、目標値0人は中々、難しい状況ではございます。ですので、子供と大人を分けてみるのがいいのかどうかというのは、また皆さんと協議しながら目標値の設定もしていきたいと思います。中高生の自殺が令和4年は514人と過去最多となった現状がありますので、その辺も踏まえながら目標値についてはご相談させていただきながら決定していきたいと思っております。
- (春山会長) ありがとうございます。追加で現状のお話があるんですね。ではお願いします。
- (事務局) 【資料2-3】に基づき説明
- (春山会長) ありがとうございます。国のプロフィールシステムによると、下野市は多少順位は変わりますが、高齢者、生活困窮者、働く世代というか勤務、経営となっていますので、そういった人たちがターゲットになるというような、分析結果があるということなんですね。今、下野市の現状をお話いただきましたけれども、何かご意見ですとかご質問ございますでしょうか。
- (原委員) 自殺を考えてしまうような時は、精神的に閉じこもっている状態なので、例えばこういった相談窓口に相談しようというような考えにならないのではないかと思います。なので普段から、目にしておけば、いざという時に思い出して相談できるかもしれません。ただ町中に自殺をやめましょうという看板を掲げられないので、何か工夫は必要ですが、普段から何気なく手を差し伸べてくれる場所があるんだというアピールはした方がいいのかなと思います。
- (春山会長) 大変大事なご意見だったかと思います。こころが健康じゃなくなる前から、普通の時からそういうことをしておくということと、先ほどのお話の中でありましたが周りが気づくとかそういうことが大事なのではないかなと思います。
- (大塚委員) 今、原委員の意見を受けてなのですが、身近なところで誰かに話を聴いてもらえたり、話を聴いてあげられるような自分でありたいと思う市民の方が多いのかなと、先月の広報にゲートキーパー養成講座というのがありまして、こちらの資料の方でもいのちを支える基本施策の6番に、民生委員の方とかそれ以外の市民の方への呼びかけもあります。支援方法の一つとして、もちろんこちらの色々な仕組みも活用しつつ、市民の一人一人が何か手助けができるような方法もあるということで、広めていけたらいいなと思いました。
- (春山会長) 相談窓口の一覧が参考資料で配布されていますので、広報、周知も必要だというご意見でした。ありがとうございます。
- (村田副会長) 自殺に関して、協議会でどの辺まで、どう扱うのかっていうのが分からなくて、そこがちょっとまだ整理ができていないです。

- (事務局) 私たちも、やはり二つの計画、協議会が二つありますので、そこをどのような形で次年度進めていくのがよいのかということについては、大変悩んでいるところです。実は明日、県の方で、自殺対策計画の策定に係る研修会がございまして、担当の方で出席いたします。その中で、個別相談の時間がありますので、個別相談の時間を使って健康づくり推進協議会と自殺対策協議会をどのように進めていくのがいいのかを、アドバイザーの先生からご助言をいただく予定です。また、自殺対策計画を策定するにあたりまして、令和5年10月に行った調査の結果につきましては、昨年8月に行われました自殺対策ネットワーク協議会で、報告しております。皆さんの方にも、まとまった際には報告をさせていただきたいと思います。自殺対策のアンケートについては郵送とインターネット方式による回答ということで、下野市に在住する16歳から79歳までの方を対象に実施しました。有効回収率は42.8%でした。ただ今回のアンケートの中に、記述で回答する部分があったんですがアンケートに答えて下さった1,108人の方の中で、この記述の部分が実は10ページにも及ぶような内容になっておりました。その為、今この内容の方を年代別、環境別などに分けつつ、学校の部分の問題もありますので教育委員会の方とどのように情報共有していくのか検討しているところです。
- (春山会長) 進めていく体制というのは、これから県のアドバイスを受けてということですかね。村田副会長どうぞ。
- (村田副会長) 役所のなかで健康増進課が自殺対策の中心であることでよろしいですかね。先ほども触れましたけど、子供と中年層と高齢者はまた全然違って、こども家庭センターがあって高齢福祉課があって、対策が縦断します。なので、それに合わせて自殺対策というので組むのであれば、横断的なプロジェクトチームのようなシステムをつくった方がいいのかなと思うのと、我々の委員名簿の役職をみると、子供から高齢者まで関わっているもので、率直に皆さんの立場から意見を集約するということでは、健康推進協議会という場を使うっていうのはいいのかなと思います。
- (春山会長) ありがとうございます。県のお立場から、鈴木さん何かございますか。相談会もあるということですので、そちらで一括のほうがよろしいですか。
- (鈴木委員) 私の方からは、やはり村田副会長からお話がかったように、子供から高齢者まで包括的に考えていかなければならないということで、具体的なことに関しては皆さんと協議しつつ考えていければ、いいかなと思います。
- (春山会長) ありがとうございます。計画と実行とそれから評価と進めていく体制で、縦ラインと横ライン両方が必要になってくるということですよ。貴重なご意見ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
- (印南委員) こころの余裕がなくなって相談できないとかそういう話の時に、これをみてすごい違和感がありました。こころの余裕がない時に、相談先がこんなにたくさんあって、どこに相談すればいいのかなという感じになってしまうと思うんです。24時間というところもありますけども、9時から17時までになってしまうと、自殺って思い立った時にふっと、してしまうことが多々あると思うので、どうなんだろうと思いました。コンシェルジュとかじゃないですけど、最初に相談する電話があって、そこに相談するとそれだったなら、あちらですねと案内してもらえる所があると、私は、気が楽になるのではないかと思います。それが24時間となれば、もっとうまく0人を目指していけるんじゃないでしょうか。

- (春山会長) 確かにこの中から自分はどれっていうと、とても難しそうで、むしろ最初の相談先があってそこでより自分に適したところへというようになれば、利用しやすくなるのかなと思います。貴重なご意見ありがとうございました。方針としては、この健康しもつけ21プランと自殺対策に関する計画を1本化していく。ただ、それをつくる体制や実行していくというのは、県のご助言を受ながら、皆さんのご意見をいただきながら考えていくということで、よろしいでしょうか。
- (鶴見委員) すみません、一つよろしいですか。資料の2-1で、二つの計画を一体的に策定するということで、現在の計画した周期を12年間の計画ということで令和19年度までとなっていますが、周期を合わせるのは良いことだと思いますが、12年は長くないのかなと思いました。そのあたり、国はどう考えているんでしょうか。
- (事務局) 質問、ありがとうございます。12年計画につきましては、国の計画も12年計画ということになりますので、それに合わせてという形になります。必ず中間評価を行っていきますし、また下野市におきましては、毎年の会議の中で評価をしつつ、12年という長い年月の間、社会情勢もかわっていくと思いますので、中間評価、見直しの時に目標値を少し変えたり、あくまでも終わりが12年後という形で、評価をしながら見直しをしながら、進めて行きたいと思っております。
- (鶴見委員) はい、了解しました。
- (春山会長) 毎年評価はしつつ、6年目の時には必要であれば計画変更も可能というように認識していただければいいのかなと思いました。では、そのような方針ということで、よろしくお願いいたします。3番目になります。健康しもつけ21プランの評価方法について、事務局の方からお願いいたします。
- (事務局) **【資料3-1、3-2】に基づき説明**
- (春山会長) 今年度の計画はすでに記入されているので、実績の記入をお願いいたします。ただ市町村の事業みたいなものではないので、「実施した」とか、もし複数回実施したのであれば「3回実施した」というように記載をお願いします。評価については、だいたい予定通りであれば「a」、予定の半分くらいであれば「b」、少しはできたかなという場合は「c」、できていなかった場合は「d」というような認識して記入いただけるといいのかなと思います。何か評価についてご質問ございますか。
- (事務局) 第一回目の会議でお配りした、事前送付資料1をご覧ください。令和5年度の皆様からいただいた評価表が一覧表となっています。そこにも課題等もあがっていますので、そちらを見ながら記入いただければと思います。もし迷う部分がありましたら、ご連絡ください。
- (春山会長) 昨年度の資料を参考にさせていただいて、よくお分かりにならない場合は、健康増進課の方に相談してください。ありがとうございます。それでは、その他に入りたいと思います。がん検診についてということで、お願いいたします。
- (事務局) R6年度の集団検診受診者数について報告。

- (春山会長) ありがとうございます。胃がん検診以外はみんな増加していて、全体としても増加ということで。子宮がん検診は大幅に増加されましたけど、何か理由があったんでしょうか。
- (事務局) 対象者が決まっております、子宮がん検診につきましては、受けていただいた年の結果が異常なしの場合には、次回の検診の対象が3年後になります。そのため今年度につきましては、対象者が多い年になっておりましたので受診者が多くなっております。
- (春山会長) 分かりました。皆様のほうから何かありますでしょうか。本日の予定は以上となります。議事の方は、これで終了とさせていただきます。
- (司会) 春山会長、村田副会長、誠にありがとうございました。令和7年度につきまして説明させていただきます。令和7年度は、健康しもつけ21プラン第4次の策定の年度となります。委員の皆様におかれましては、健康しもつけ21プラン策定委員会の委員としてお願いしたく存じます。会議は、年5回から6回程度の開催となりますので、お忙しいところ大変申し訳ございませんが、委員の皆様のご協力をお願いいたします。何かご質問ございますでしょうか。
- (佐藤委員) 健康しもつけ21プラン策定委員会が年6回ということで、あらかじめ日程等が分かればお知らせ頂ければ、ありがたいのですが。
- (司会) 現段階でまだ詳細が決まっていないので、決まり次第速やかに皆様にお知らせさせていただきます。

閉会